

一般社団法人 長岡青年会議所

12月例会

羽ばたくリーダー～受け継がれるJCの魂～

会員NO.3

AKIRA KITAZAWA

北澤 晶



一般社団法人 長岡青年会議所

12月例会

羽ばたくリーダー～受け継がれるJCの魂～

活動年表

氏名	北澤 晶		正式 入会	2011年 2月24日		出席率	
年号	所属委員会	理事	日本JC	地区協議会	ブロック	前期	後期
2011	拡大育成委員会					86%	100%
2012	日本JC連携会議		全国大会 運営会議			100%	100%
2013	灯籠委員会 運営幹事	○				100%	100%
2014	灯籠委員会 副委員長		褒賞委員会			100%	100%
2015	60周年企画運営特別委員会 委員長	○				100%	100%
2016	事務局長	○				100%	100%
2017	平和を紡ぐ委員会				事務局次長	86%	100%
2018	副理事長	○	価値デザイン 会議			100%	86%
2019	副理事長	○	地域スポーツ 活性化委員会			100%	100%
2020	監事					100%	100%
2021	理事長	○				100%	100%
2022	直前理事長		まちのレジリエ ンス確立委員会		監査担当役員	86%	100%
2023	監事				共創の魅力発 信委員会	100%	100%
2024	子ども未来委員会	○		地区フォーラム 運営委員会	副会長	86%	

一般社団法人 長岡青年会議所

12月例会

羽ばたくリーダー～受け継がれるJCの魂～

インタビュー

JCに入られたきっかけを教えてください。

2011年3月、30歳になったら青年会議所（JC）に入会しようと考え、2月には商工会議所青年部（YEG）に加入しました。その後、新潟で敦井産業の敦井一友さんと、父や支店長を交えた4人で会食する機会がありました。敦井さんは当時、新潟JCの会長を務めており、長岡JCへの入会者を探していると話していました。敦井さんは長岡の取引先で入会者を募っていたようです。

長岡JCに入ることで敦井さんとの関係を築けると考え、入会を決定しました。紹介者は佐藤直樹先輩と近藤正明先輩です。



JC活動で一番印象に残っていること、印象に残っている例会を教えてください。

印象に残っていることはたくさんありますが、一番は理事長を務めた年ででしょうか。コロナ禍の真っ只中で、大変な年でした。

特に記憶に残っている例会は、2014年7月に佐藤直樹さんが委員長を務めた「長岡の魅力伝えるCMを発表する対外例会」です。この例会では、大学教授など外部の方が審査員を務め、グランプリも佐藤直樹さんが受賞しました。ただ、この例会で一般市民の参加者が実際は5人だったのに、報告時には18人に増えていたというエピソードもありました。

また、最近では「迷探偵困難」の例会も印象的で、以前の記憶を塗り替えるほどでした。

さらに、8月1日の前夜祭が平和祭に変わる際の例会も印象に残っています。その採決時、長岡市役所の庶務課だけが反対の意思を示し、却下に手を挙げていました。その姿勢から、彼らの強い意志とぶれない信念を感じました。

一般社団法人 長岡青年会議所

12月例会

羽ばたくリーダー～受け継がれるJCの魂～

インタビュー

「JCに入ってから失敗談を教えてください。またその失敗はJC活動以外にも活かされましたでしょうか。」

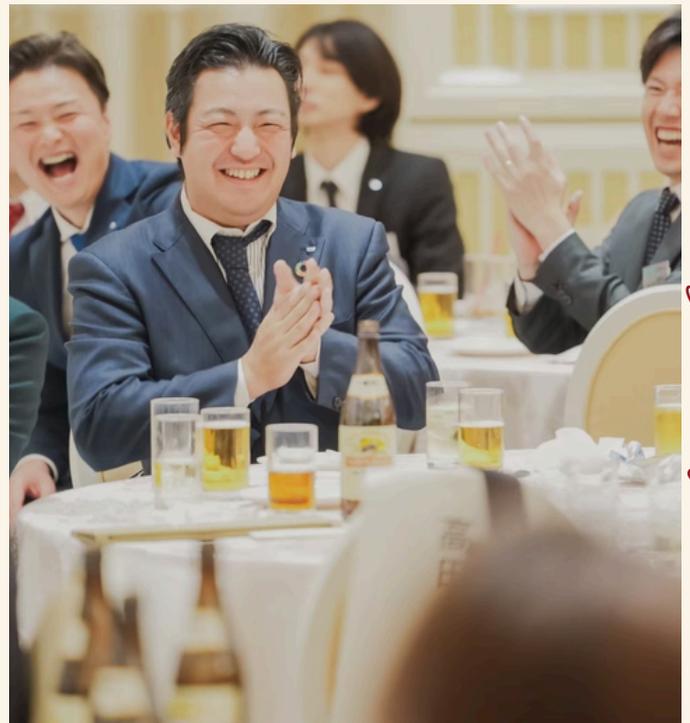
2月14日に長岡JCに書類を提出したあと、3・11の震災から約1週間後に平石祥吉先輩が震災地へ支援物資を届ける映像を見る例会がありました。この例会は午前中で終了する予定だったため、前日の土曜日の夜から一睡もせず朝まで飲み、その例会後に寝るつもりで参加しました。ところが、例会後に当時室長の丸山清貴先輩から飲み会に誘われました。一度は寝不足を理由に断ったものの、最終的に参加することにしました。20時頃、「灯」で会計したところまでは記憶がありました。しかし、家で目を覚ますと、もみ殻が付いた状態でボタンを留めたまま破けてはだけた服が掛けられていました。

翌日出勤時に、同じ新入会員から前日の出来事を聞いたところ、カラオケで口から酒を摂取できなかったため酒を頭からかぶり、上半身裸になった状態で店員さんに何度も注意されていたことが分かりました。服を脱ぐのが面倒になり、ボタンを付けたまま服をだけさせていたそうです。その後、22時にはタクシーで帰宅したとのことでした。さらに、奥様から聞いた話では田んぼのみみ殻の上で寝ているところを警察に保護され、パトカーで帰宅したとのことでした。

この経験を通じて学んだのは、未来を自分の良いように考えてはいけないということです。どんな状況でも最悪のケースを想定して行動すべきだと痛感しました。

「JCに入られて、成長を実感したと思ったのはどんな時でしたか。また、成長に繋がったと思った事業があれば教えてください。」

具体的に「これをやったから成長した」と言えることはありませんが、やらされたことは多く、特に2年目の運営幹事の後には、JCに入っていないなかったら経験しなかったようなこともありました。無理やりでも学ばざるを得ない状況に追い込まれたことは事実で体育会系の雰囲気強いJCで様々な経験を積み、それが無駄だったとは思いたくはなかったです。したがって反面教師として学びを無理やりでも得ることで、自分なりの成長に繋がりました。



一般社団法人 長岡青年会議所

12月例会

羽ばたくリーダー～受け継がれるJCの魂～



JCで与えられた役職に対し、どのようなモチベーションで活動していたのか教えて下さい。受けて良かった点を教えてください。

運営はメンバーを出席させること、委員長がいるところには絶対に出席することを心掛けていました。議案を構築している間は毎日メンバーに連絡し、全体把握していました。運営は理事を受けた方が良いです。どの委員会が何をしているか把握してサポートが出来るからです。



JCの活動において、やり残したことはありますか。また、何故そう思われるか教えてください。

組織の活性化に関して、もう少し形にしたかったという思いがあります。毎年違う形になり、同じミスを繰り返していたので、しっかりとした仕組み作りを進めたかったと感じています。

また、海外との関わりや、毎年変化する状況を考えて、周年の機会をもっと活用すべきだったと思います。周年は、次の5年、10年の活動方針の方向性をある程度明確にできる年であるため、その点にもっと力を入れたかったです。

ただ継続するだけの組織ではなく、進化し続ける組織にするための仕組み作りが不十分だったことに心残りがあります。

卒業後長岡に対してどのような貢献を考えていますか。そして、どんなリーダーとしてあり続けていきたいですか。

社会貢献を目的とする団体に参加し、その活動を通じて地域社会の課題や必要なことを知ることは重要だと思えます。また、団体内の多様な価値観に触れることで、自分自身の視野を広げていくことも大切です。

その団体で主体的に活動するわけではなくても、賛同し参加することで、JCだけでは得られない幅広い社会貢献の可能性を見出せると考えます。これにより、自分とは異なる価値観を持つ人々と関わりながら、新しい学びや気づきを得られるでしょう。

さらに、JCや仕事を通じて学んだことを活かし、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。現代社会では、企業も持続可能な形を模索し、社会的価値を重視する方向に進む必要がありそうです。そのような企業や取り組みを支援することが、自分の役割の一つだと感じています。

一般社団法人 長岡青年会議所

12月例会

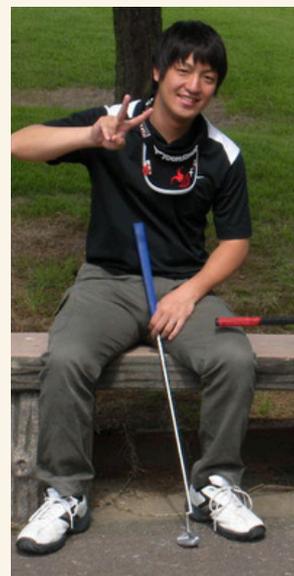
羽ばたくリーダー～受け継がれるJCの魂～

**JC卒業までにこれだけはやっておけ！
後輩メンバーへ熱いメッセージを下さい！**

JCは、最終的に卒業する時が来るからこそ、情性ではなく本気で取り組んでほしいと思います。ただし、本気を出す際には、JCをJC内部の価値観だけで見て活動するのではなく、社会全体の中でのJCの役割を考えるべきです。

JCの本質とは何かを見極め、社会の本質と一致しているかを考えることが重要です。もしズレてしまえば、JCは社会的価値を持たない団体になりかねません。「JCは社会の中の一部である」という視点を持ちながら、JCがどんな会であり、どんな社会的価値を提供できるのかを考えて活動すれば、時間やお金を投資している自分自身も、社会に価値を提供していると実感できるはずです。

また、JCの本質を理解していれば、自分が忙しくて時間を作れない時でも、貢献できることや自分にできることを見つけられます。逆に、その本質を理解せず、単に「顔を出すこと＝JC活動」と思い込んでしまうと、顔を出せない時にはJC活動をしていないことになってしまいます。しかし、本当はそうではありません。本質を理解していれば、様々なアプローチでJC活動を続けることができるのです。



心に刻んでいる言葉を教えてください。

「素直」であることを意識するようにしています。何かを決めついたり、忠告を反発的に捉えたりせず、素直に受け入れることが自分の成長に繋がると考えています。

立場が上がると指摘される機会が減り、関係性が深い人以外から意見をもたうことが難しくなります。しかし、JCのような仮想的な空間では、たとえば普段の仕事では下請けにあたる人が、JC内では上の役職に就いていることもあり、そうした関係を通じて組織運営を疑似体験することができま

す。

その際、他者の意見や指摘を反発せず素直に受け入れることが大切です。せっかくのアドバイスを無駄にせず、自分の糧にする姿勢を持ち続けたいと思っています。

一般社団法人 長岡青年会議所

12月例会

羽ばたくリーダー～受け継がれるJCの魂～



理事長を経験した後の活動に対する想い並びにしたかったことがあれば教えてください。邪魔しないようにしよう、と思いました。

私たちが取材しました

私、佐藤 拓弥、小島 義瑛、粉川 ちなみ、岡埜 隆彦、堀内 慶大が、インタビューさせていただきました。

今回のインタビューで刻んでいる言葉に(素直)ということがありました。仕事内容、会社での立場もあると思いますが私が素直に物事を考えることを疎かにしていると思いました。素直に人の話、状況の判断を受け入れておらず、私は私の考えを押し通すことばかりだったと思いました。素直に物事を受け入れようと思います。北澤晶ご卒業生との会話は毎度、考えがよい方向性なる事が多いのもっと関わりを持っていきたい気持ちが残りました。



佐藤 拓弥



北澤晶御卒業生のお話を伺い、10年前と今とでJCも大きく変わったと思いました。おそらく、私が卒業する時にもJCの在り様も変化すると思いました。しかし、それを良い悪いと決め付けずに、ひたむきにJC活動を頑張ろうと思いました。

岡埜 隆彦

町を変えられると思わなければ変えられる訳ない。という言葉が響きました。今後の活動を通して自分が挑戦できることを見つけ、きちんと影響を与えられる働きをしていきたいと思っています。



粉川 ちなみ



堀内 慶大

JC活動には社会的価値が必要であり、単年度制という「非連続の連続」の中でもいかに組織を持続させていくか、というお話は目から鱗でした。社会情勢が変わる中でも、その時々地域の課題に対する価値提供を行うべく、JCという組織を存続発展させるべく、JC活動に対して本気で取り組もうと決心できました。

様々な物事の本質に目を向ける大切さを学ばせていただきました。この役職に求められていることは何か。これは何のために行うのか。ただ、与えられたものを行うのではなく、本質について考えることで、自身の行動が変わると思いました。物事の本質に目を向けて行動することで、その行動に対する根拠のようなものを持って行動でき、それが本気で行うことにも繋がってくると思いました。JCの活動に限らず、自身の行動の隠れた本質を探しながら、行動していきたいと思いました。



小島 義瑛